



発行所  
 十勝毎日新聞社  
 ©十勝毎日新聞社 2007  
 〒080-8688  
 帯広市東1条南8丁目  
 TEL(代表)0155-22-2121  
 編集局 0155-22-2121  
 広告局 0155-23-2323  
 広販売局 0155-24-2222  
 業務局 0155-22-7555  
 総務局 0155-24-2299

# 大樹に宇宙エネ基地構想

## 太陽光で電力、水素 12年度第1弾完成目指す JAXA

【東京】宇宙航空研究開発機構(JAXA)が大樹町で、宇宙エネルギー開発基地の建設構想を進めていることが、28日までに明らかになった。宇宙空間の巨大集光鏡で集めた太陽光エネルギーをマイクロ波やレーザーの形で地上に送り、電力や水素を得る計画の技術実証施設。第1弾の施設は2012年度までの完成を目指す。関係者は「大樹でシステムを完成させ、エネルギーの安定供給を目指す。輸出すれば世界経済の発展、地球温暖化の回避に貢献できる」と話している。

(深田隆弘)

### 5年間で500億円投入

JAXAは地球温暖化力を得る仕組み。水素も作り出し燃料電池などに供給できるエネルギーの利用法を研究、30年ごろの実用化を目指している。原子力発電を補充するエネルギー源と位置づけられている。

無尽蔵に得られる太陽光エネルギーを、地上約3万6000㎡の静止軌道上に装置を打ち上げて収集。マイクロ波かレーザー光に変換して地上か海上の基地に伝送。1基で電力を高め、距離を伸ばす必要があるが、地上で

大22年までに1000億円を目指す。宇宙で倍に当たる数十倍の集光も実証を進める計画だ。

関係者は「中国やアメリカ諸国などの無電力地域へのエネルギー供給にも生かせる。地球全体のエネルギー供給を考えた夢のある技術を生勝・大樹で必ず開発したい」と話している。

実証するには現施設は手狭。広大な敷地確保が見込め、宇宙関連施設の誘致に熱心な大樹町を、新たな開発基地の候補地に選んだ。

JAXAはこれまでに、宮城県内の施設でレーザー、マイクロ波の伝送基礎実験や受電アンテナの開発を行ってきた。送電出力数ワット、送電距離500メートルを達成した。実用化に向けては送電距離が10キロを、送電電力は数十キロワットで5年ごとに順次拡